

2014年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極うずの中心は平年と比べてカナダ側に偏った。アラスカ付近、ヨーロッパ、モンゴル付近ではリッジ、カナダ東部では顕著なトラフとなった。亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸南部から日本付近にかけて平年の位置と比べて南寄りを流れた。ユーラシア大陸北部では寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。アリューシャン低気圧は平年より強かった。月の前半はシベリア高気圧が平年より強く、本州付近への張り出しが明瞭だった。本州付近では低気圧の活動が平年より活発だった。

熱帯の対流活動は、日付変更線付近、アフリカ中部からインド洋中部で平年より活発、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にアフリカからインド洋、中旬に太平洋を東進した。対流圏下層の赤道域ではインド洋で東風偏差、太平洋西部では西風偏差が卓越した。対流圏上層では、アジア南部で低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は -0.9 だった。

世界の天候

2014年3月の世界の月平均気温偏差は $+0.21^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.82^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国東部及びその周辺では異常高温となった。
- ヨーロッパ東部～北西部では異常高温となった。
- カナダ南東部～米国東部では異常低温となった。

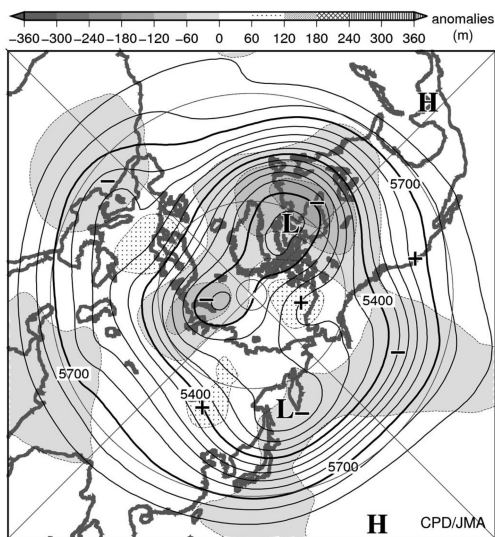
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

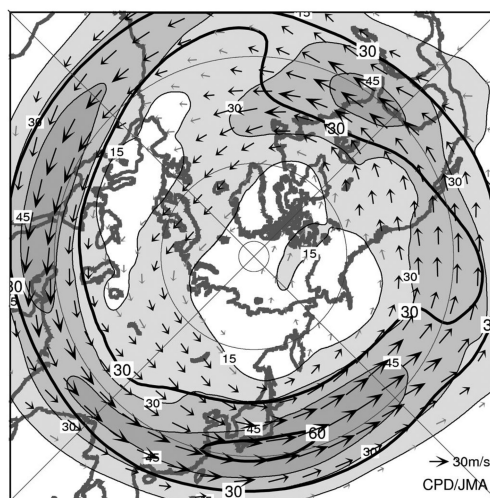
※ 2013年の異常気象・天候や気候系の特徴をまとめた「気候系監視年報2013」を公表しました。気象庁ホームページからご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/nenpo/index.html>



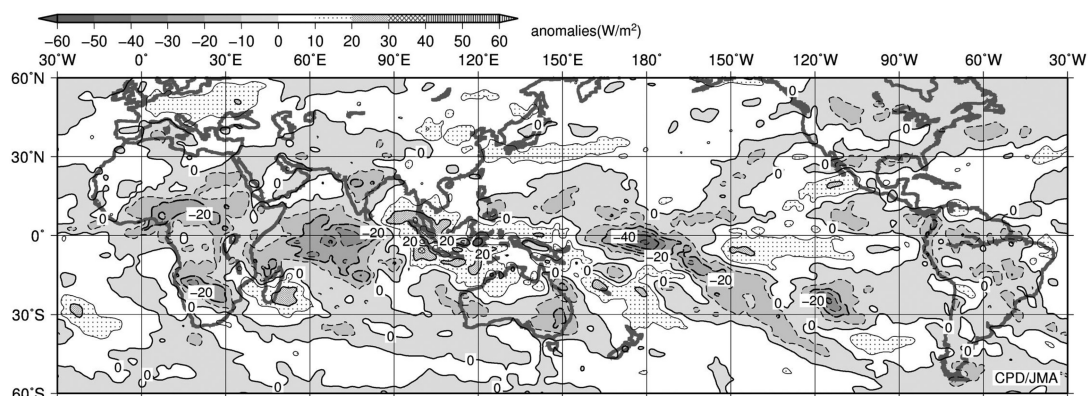
2014年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



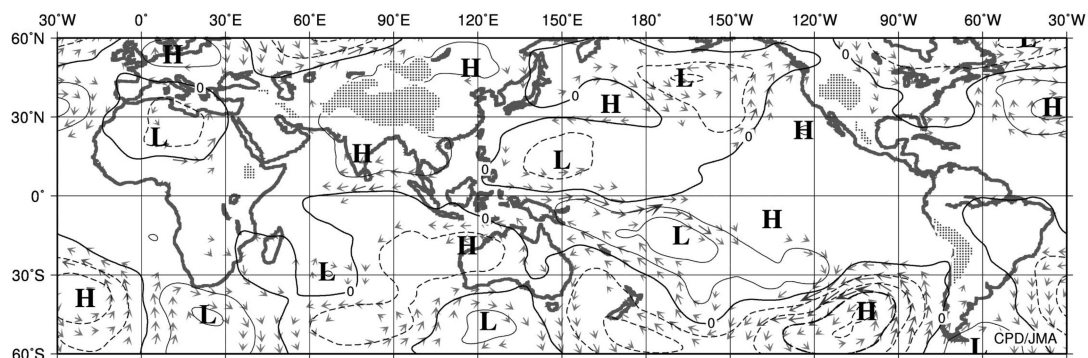
2014年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は15 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



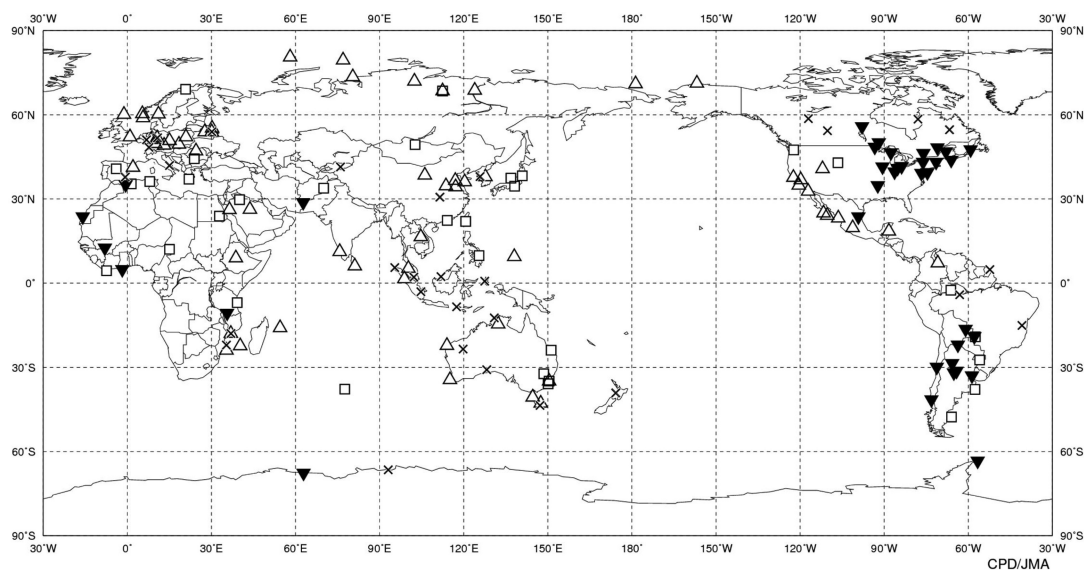
2014年3月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。